

4

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

昨年度開催し、応募多数で好評を博したプログラムを再度開催。コレクションの名品から三重ゆかりの作家による作品を選び、目の見える人、見えない人、さまざまな見方を持った人が、見えることや感じることを言葉にしなが鑑賞した。オンライン会議システム Zoomによる開催。

日時：2023年3月5日(日)、12日(日) 各日14:00-16:30
ナビゲーター：林建太、浦野盛光、平海依(「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」メンバー)
定員：5日8名、12日8名

5

情報保障付き講演会(「西洋美術へのまなざし」展連続レクチャー)

参加者のリクエストに応じて情報保障をするのではなく、当初より「手話通訳・要約筆記付き」で計画した講演会。これまでアプローチできていなかった耳の聞こえない/聞こえにくい人を主な対象とし、作品画像を投影するスクリーンの横で、手話通訳とパソコンによる要約筆記を行った。

日時：2022年 ①11月23日(水・祝) ②12月3日(土) 各日14:00-15:00
会場：三重県立美術館 講堂
講師：①速水豊(三重県立美術館 館長) ②坂本龍太(同館 学芸員)
参加者数：①35名 ②40名

6

コレクション オーディオガイド

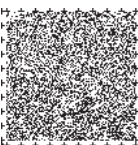
2020年度に所蔵品5作品につき2本ずつ公開した音声ガイドの追加制作。今年度は作品の制作背景や作者等について説明したA解説20本と、主に目の見えにくい人の利用を想定したB解説(言葉による記述)10本を制作し美術館ウェブサイトで公開した。

実行委員会構成：
三重県立美術館(中核館)
公益財団法人三重県文化振興事業団
三重県子ども・福祉部障がい福祉課
三重県立美術館ボランティア「樺の会」

謝辞：事業を実施するにあたり多大なご協力をいただいた関係諸機関、関係者の方々に深く感謝の意を表します。

令和4年度
「美術館のアクセシビリティ向上推進事業」報告リーフレット
執筆・編集：鈴木麻里子、坂本龍太(三重県立美術館学芸普及課)
デザイン：溝田尚子
印刷：株式会社 アイブレン
発行：美術館のアクセシビリティ向上推進事業実行委員会(三重県立美術館内)
〒514-0007 三重県津市大谷町11番地
TEL.059-227-2100 / FAX.059-223-0570
発行日：2023年3月24日

報告書オンライン版 URL
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000271527.htm>
より詳しい情報はこちらから



| 令和4年度 文化庁 Innovate MUSEUM 事業 |

美術館の アクセシビリティ 向上推進事業

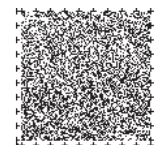
報告リーフレット

この事業は、三重県立美術館が中核となり実施する、美術館のアクセシビリティ(=利用しやすさ)を向上させるための事業です。美術館を利用しづらい人々と協働し、「誰もが利用しやすい環境」を整えることをめざしています。
(「三重県立美術館のめざすこと」2018年策定)

事業3年目となる2022年度は、過去の企画を改良したプログラムの開催に加え、新たな対象に向けた取組や、動画・音声ガイド等コンテンツの制作を行いました。アクセス向上の取組を「特別」ではなく「あたりまえ」の事業として定着・継続させることに努めました。

(助成期間：2022年9月1日-2023年3月31日
*2022年12月12日-2023年3月23日は館内設備改修工事のため休館)

このコードは文字情報をおさめた「音声コード」です。読み取りには専用アプリ「Uni-Voice」または「Uni-Voice Blind」のダウンロードが必要です。裏表紙の右下にはQRコードを掲載しています。報告書オンライン版はそちらを読み取ってご覧ください。



赤ちゃんのための鑑賞会と その関連プログラム

1 | 「赤ちゃんのための鑑賞会 2022」

2020年度にオンラインで開催した「赤ちゃんのための鑑賞会」を対面で実施。ガイダンスの後、コレクション展示「西洋美術へのまなざし」展の会場を回り、0-2歳児の反応を参加者同士で共有しながら、講師や展覧会担当学芸員が鑑賞のヒントや作品情報を提供した。

日時：2022年12月4日（日）①9:45-10:45 ②11:00-12:00
会場：三重県立美術館 展示室、エントランスホール
講師：富田めぐみ（NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表理事）
参加者数：0-2歳児と保護者、家族 ①7組19名 ②7組20名



実施風景
撮影：松原豊

2 | 講演会「つながっているよ、描くこと・見ること ～子どもの育ちと美術～」

講師がこれまでの実践や調査を踏まえ、赤ちゃんや子どもの鑑賞の傾向や、鑑賞活動と創作活動のつながりについて講演。レクチャー後、質疑応答も行った。

日時：2022年12月4日（日）14:00-15:30
会場：三重県立美術館 講堂
講師：富田めぐみ
参加者数：18名

3 | 動画「はじめての美術館

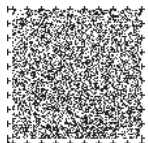
— 赤ちゃん・小さい子どもと美術館を楽しむヒント —

限られた参加者や来館者だけでなく、多くの方が手軽に美術館を楽しむヒントを得られる媒体として、日本語字幕付きの映像を制作し、YouTubeで一般公開した。動画では富田氏が館内外を巡りながら、赤ちゃんや小さい子どもと鑑賞を楽しむための7つのポイントを紹介する。

公開日：2023年2月9日（木）
企画・協力：NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会
構成・出演：富田めぐみ
撮影・編集：谷澤陽佑（一部の撮影・録音は三重県立美術館が担当）
映像時間：16分37秒



動画公開ページ



特設コーナー「さわって楽しむ 柳原義達の作品」

三重県立美術館のコレクションを代表する彫刻家・柳原義達のブロンズ作品5点を、誰でも触察できる展覧会。触覚による鑑賞の可能性を拓くことで、常設する柳原作品の新たな側面を紹介した。来館者がじっくりと作品に向き合えるよう、会場には腰かけやすい椅子や専用の展示台を設置。

会期：2022年11月15日（火）-12月11日（日）
会場：三重県立美術館 柳原義達記念館B室
来場者数：2,290名

展示風景
撮影：松原豊



三重県立四日市高等学校 学校美術館 「はじめての美術館」

三重県立美術館の所蔵品を四日市高校の武道場で展示するプログラム。来場する小学生の美術館デビューのために、高校生が作品選定やコメント執筆を行った。美術館は「近くにない」「子ども向けではない」等、昨年度の調査でも明らかとなった課題を、高校生と協働して解決する取組。

1 | 事前授業

12月の授業では、出品候補作品のカードを見ながら、小学生がはじめて出会うのにふさわしい美術作品を、高校生が各自3点選び投票。2月の授業では、小学生が自らすすんで鑑賞を楽しめるよう、高校生がコメントを執筆した。

日時：
①2022年12月12日（月）2・3限、20日（火）1-3限
②2023年2月6日（月）2・3限、7日（火）2・3限、9日（木）3限
会場：三重県立四日市高等学校 美術室
参加者数：三重県立四日市高等学校美術I選択者105名



2月の授業風景

2 | 展覧会

高校生による投票の結果に基づき、三重県立美術館の所蔵品25点を、四日市高校の武道場に展示。午前中には富田小学校の3・4年生が来館し、作品を鑑賞。高校生のコメントの一部は作品の隣にパネルとして掲示し、全員分のコメントはリーフレットや美術館ウェブサイトに掲載した。

日時：2023年3月16日（木）10:00-15:30
会場：三重県立四日市高等学校 武道場
来場者：三重県立四日市高等学校1・2年生、四日市市立富田小学校3・4年生、各校教職員等

